

【一般口演5】 第15席

聖人の治病

神奈川 家本 誠一

中国古代医学は三つの部分から成る。

- 1 人形の論理 基礎医学
- 2 百病の世界 疾病論
- 3 聖人の治病 望問切 診断の機構
治病 治療の構成
養生 予防の方法

鍼灸考'97 IN KYOTO に於いて「望問切－診断の機構－」と題して、診断学について概観した。本論考では中国古代医学の治療学について総論的に考察する。

不病の人を平人と云う（『素問』18）。平人は、陰陽均平し、以て其の形を充し、九候一の如くで、命づけて平人と曰う（『素問』62）ものである。平とは左右のバランスのとれている状態を云う。

人のからだは蔵府経脈より成る。五蔵の道は経脈より出で、以て血氣を行り、生理機能を遂行する。この血氣が不和なるときは百病乃ち変化して生ずるのである。一度発病すれば氣血以て并し、陰陽相傾き、虚実が生ずる（『素問』62）。曲がったものを元通り真っ直ぐにすることを直すと云う。治療とはこのバランスを元の平均に戻すことである。即ち虚を補し実を寫し、血氣の凝滯を開通させ、其の流通を良くするのである。

中国古代医学の治療は総合的である。聖人は離合して治し、各々其の宜しき処を得。治、異にして病皆愈ゆる所以はやまいの情を得て治の大体を知ればなり（『素問』12）、と云う通りである。治療の手段に就いては『素問』の異法方宜12、玉機真藏19、血氣形志22の各篇に挙げられている。血氣形志22では灸刺、鍼石、熨引、百薬、按摩、醪薬の諸法と共に食事療法に就いても詳細に記してある。

本論考に於いては此れ等の事項の他、原則、方法、手順、予後、歴史等の諸問題に就いても考えたい。

キーワード 平人 補寫 通塞 雑合して治す